

1. 京都の地下水の水量と水質への影響

⑤ 京都市営地下鉄東西線の施工事例

- 平成9年までに施工された京都市営地下鉄東西線の蹴上駅・二条駅間では、全体の約4.7km中、約2.3kmが開削トンネルであり、工事期間中の地下水位低下がみられた。（下図）
- シールド区間（下図青線）のうち蹴上駅・東山駅間では地下水位の影響がみられない。また、東山駅・三条京阪駅間、三条京阪駅・京都市役所前駅間及び烏丸御池駅・二条城前駅間はシールド区間であるが、当該区間が地下水位低下範囲の同心円の中心になっておらず、隣接する開削区間の地下水位低下の影響がシールド区間にも及んだものと考えている。
- 平成14年から施工され、平成20年に延伸開業した二条駅・太秦天神川駅間については、全体の約2.4km中、約2.0kmがシールド区間であったが、「周辺井戸への影響はほとんどなく、補償件数はゼロであった※」とされている。

※「京都市高速鉄道東西線建設小史(二条・太秦天神川間)」平成21年京都市交通局

